源氏系圖

857
120
反故注意 帙入

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

857-120

大上天皇

あまひの巻より此位をゆづりまをおり給ひて末の巻より

うくれ給ひ給ひつぎの帝ひ門おりひき付より桐帝ともあり

前坊　故院のれもうとと葵よりそしうると

秋好中宮　母六条れ息所

あまひより秋家よりうち給をれげうしより都へ御くを給

繪合より関より梅つぼとりさし女より中宮

ようちれ法より皇后宮よりあがくを給ひき付より秋家

桃園式部宮　うを給ようす雲の巻よりそしうり

槿斎院　さうまようものいつきよりあ給うす雲より父のれ

服よりてありさせ給桃園宮より女宮とあひて

帝國圖書館藏

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

まゐりのふ　ワきけよ　槿とあり

三宮　院のひとりは服也　桐壺の小方よりまゐりのふ　萩ごろ　夏乃巻ノ上ニ

巻ノ上ニ

女五宮　桃園宮　住みのふ　紅ゴロモ　巻ノ上ニ

朱雀院　ワキ付朱

女御　弘徽殿大后

相つぎの巻ノ上ニ　巻ノ上ニ　おはしまされ　位ノ上ニ　おげ　巻ノ上ニ

くらゐを　巻ノ上ニ　譲　ノ上ニ　れ　上ノ上ニ　れ　ぐ　おろ　て　西山の

寺ノ上ニ　すまを　給　同巻六条院は　賀　れ　ある　一院と　ぶれ　門也

今上　女御　義香殿　女御　頭中将娘

明石の巻ノ上ニ　二歳　ぞ　おげ　て　る　巻ノ上ニ　梅ごえ

れ　元服　ノ上ニ　れ　下ノ上ニ　くらゐ　ぬ　ノ上ニ　ワキ付今上

女一宮　ノ上ニ　れ　の　上ノ上ニ　ぞ

落葉宮　女御　一条　邸　母

ノ上ニ　れ　の　下ノ上ニ　柏木　右衛門督　の　小方　ノ上ニ　ある　給　後

夕ぎりの大将　くらゐ　ひとり　ぞ

二ノ内親王　女御　先帝　源氏宮

ノ上ニ　れ　上ノ上ニ　六条院　ノ上ニ　て　月下ノ上ニ　二ノ内　給　柏木巻ノ上ニ

ある　ぞ　くらゐ　ぞ　ワキ付女三

女四宮　ノ上ニ　れ　上ノ上ニ　ぞ

春宮　女御　の中宮

ノ上ニ　ぞ　上ノ上ニ　む　れ　の　ひとり　ノ上ニ　月下ノ上ニ　坊ノ上ニ　ある　ぞ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

式部卿宮　母は同じ藤壺

ゆふ顔の巻なり。夕霧は中宮をとりて、六条院の寝殿を
やすらひ給ふ。二の家とこそ申げるなり。式部

白藤の宮　母は同上

とりわけ、白顔の巻なり。ごんづくにて、藤壺
うんぢ、むかしのうへやしきにおはし給ふ。三の家や白
若君　母は宇治の中の君

やどり木は巻なり。むもれ給
常陸宮　母は更衣

白顔の巻なり。夕ぎりの大将のをばゆかりの人なり。
宇治に日。藤壺の家なり。ひとをされし人。四の家とこそ

中務宮　母は同藤

同の巻なり。日夕霧の大将まゐりて、車よりのを給
しなの家。あづまやなる大家のれちなる時まゐり給ふ。
ぎりに上野のみこと。殿上人なり。ひ給ふし人

一品宮　母は同藤

これもむかしの上やしきなるひめ。六条院の南の町な
すまを給ふ。ゆゑ大将心ゆけてまゐりし人

女二宮　母は藤つぼの女御

やどりぎは内のれさうにて。ゆゑ大将をむかへる光給
母きりつぼの更衣

六条院

七歳にて源の姓を給ふ。十二にて元服。ずきづの中将。

紅葉賀より匹三位中将 碧 同巻より宰相中将 知元 葵より大将 源氏 の巻より浦より明石の巻より松より須磨の巻より澪標より蓬生より関屋より絵合より松風より薄雲より槿大納言より朝顔より少女より玉鬘より初音より胡蝶より蛍より常夏より篝火より野分より行幸より藤袴より真木柱より梅枝より藤裏葉より若菜上より柏木より横笛より鈴虫より夕霧より御法より幻

大上天皇の巻号をえあり 以上付添

夕霧 左大臣 母葵上

をはつせより内藤家の昇殿し女元服してあるべし

てくらの御息所巻の秋除目ようあり第雀院行幸

のは伯後より玉うづより中将 致 宰相中将 知元 致の

うへに権中納言 知元 より左大将 母下に大納言 知元 より

左大将より特進 白家 の巻より左大臣 大将 知元 行幸より左大臣辞大将

薫右大将 母朱雀院女三の宮

柏木の巻より生れ 白家 の巻より元服して四位の侍

後とそして その秋右近中将 寺 十四 月巻より三位

宰相より 中将 知元 竹河より中納言やどりぎの二月より

権より 権大納言 より左大将を兼ず

明石中宮 母あかし の うへ

さおひの三月より明石の御 うま して生れ給 松風より

のぼりて大井 あはい よりすま給 うす雲より六条院へむかへ給 致

のうへより 雲 へまいりて さげいきやとそして 白 れ法

より中宮 白家 の巻より皇太后宮 白家

右衛門督　　参三条上

まうれたまふ朱雀院の御ぐしおろしたてまつり
給ふ御ぐしのかたちうつくしう聞こえ給ふ白衣の参るほどの
程なくて出仕をしたまへば又うかの参の家宣旨にて紅葉
の日出仕をしたまへば又うかの参の家宣旨にて紅葉
の日中宮のおはしますにまうでたまふ
げまをしたまふ

中納言　　参殿内侍

六条院夜のおとゝにてやしまの法師朱雀院
のおん賀をしたまふ御日あるを同じくまゐり
給ふ殿上人白衣の参るほどの日出仕をしたまへ

右大弁　　参三条上

うかの家の参るほどの日出仕をしたまへ
ようぢんまゐりたまふ日うれたまふ
いとう

侍従宰相　　参誰とも

おぼえぬ白衣のえぼしをきうでの時宣旨にまゐる
ちうしん

源宰相中将　　参三条上

もとの殿人廿将行幸の三位中将同参る宰相中将
おぼえぬ權中将といふ又まゐりの参る
おなじ行幸にまゐる殿上人ぞや

頭中将　女房内侍

行河は源少将といへり。やどりまは白家六の君よりひ
そめ給しぬ。ちゝはゝぐの作ひてぞ。ひとりぬ
と。たゝへ人。椎本は。中将といへるひ人なるべし

四位少将　女三条上

一品宮れたるやとの時。横河僧都のまへ。中宮れ
さ人。行川は。法華法師。さねぐもに。法華法師といへり

童　女雅ともなる

やどりまは今上の女二宮。女房のえん。さ給しぬ。登山
さ。ひ人。ちゝ。ぞとあると

春宮女御　女三条上

中君　女おなし

二宮のさゝのこ

三の君　女房内侍

四の君　女三条上

五の君　女おなし

以上三人。ぐるとの巻は。こゝ

六の君　女房内侍

やどりまは。自宮れ。ひとりは。

蛍兵部卿宮

ゝは。帥宮。女は。朱雀院の行幸の時。兵部卿とこゝ

うち給へるうへ　紅梅　こうばい
侍従　女房　のきばのこと
梅がえ　六条院うちのれつにひきそれ本ちいで
一人
童　女
同
ひ二人　ワれ下ま　朱雀院の　賀の　きづ　方　厳楽
まひ　ま
宮　女房　女房　紀ノ　ノ　ノ　

られめふ口き付中

浮舟　母ひくちぶいまれこそれる

やどりまるひくちうのぶりて東屋ようぶるうつ

ふるこれるふ野ようつち沼口さ付浮

式部宮

あづまやの巻ようむすめ大将ようこそうしー人

げろふの巻ようをのくるうしー人。源氏大将のおぢとい人

侍従　母りとのそるのる

宮内　母おちぶ

父うをのてのちあしれ一品のうへまいりと結

ほふ大将ようすーまひしー人

冷泉院

母うして雲の女院

あつれよ長家こおげうーよれそくれ見れ下よれるる

源十のれるとりさ口さ付冷

一の宮　母ひげぐろの大臣女

むまれ沼ようー行げようれる

女一宮　母弘仕大臣女

一のうやようるるあね

女二宮　母一家よおちぶ

行げよまれ沼これを一の宮北姫や

一品の宮　母朱雀院よおちぶ

女一のうやちぶ一品のうーれ上ようる

られめ　ひくまれる
浮舟　母　ひくちゞ　ひくまれる
やどりまゝ　ひくちゞ　ひくまれる
あるまゝ　ひくまれる　ひくまれる
ふるまゝ　ひくまれる　ひくまれる

式部宮

あづまやの尋ね　むすめ　夏　侍大将　ようきこえ　ひとり
げろの尋ね　むすめ　侍大将のぞきいる
侍従　母　のぞく
宮内　母　おなじ
父　やうきのてのち　あしれ　一品のみやへまゐる　結
ほうた侍　ようきこえ　ひとり

冷泉院

母　うゑ　雲の女
あつまひる　雲　こおげ　ようれ　くれ　見れ　下　おなる
治十の御　おとゝ　ひくまれ　冷

一の宮　母　ひげぐろの大臣女
むまれ治　ひくまれ
女一宮　母　弥仕大臣女
一のみやうまれ
女二宮　母　一宮　おなじ
竹げ　生れ治　これ　一の宮　妻　妹
一品の宮　母　朱雀院　おなじ
女一のみやうまれ　一品のみやうまれ　上　ようる

女二の宮
前秋院

あつまりものいたきまゝおはせ院のれぐまち
ておりさせ給女三の宮とあり

先帝

式ア宮

さいめハ若ちとさゝしき女ゝ式ちゝ
薄雲女院　后だちの宮の宮ちり
さちつぐゝ内へさいり給ふ萩つぐとさゝ
紅葉賀
ゝ
ゝ
ゝ

いと三人いもうとれ侍・大将の御子・左のもと
ちうむ人まいりし人
髭黒大将宮　母今の北方
大将ひとりぬれいけし人
北の上　母按察大納言女
十ぐらるとの時・源氏の君むこ人へらう給・後のうしろぐして車
をゆるされ法ようくれのふ
冷泉院女れ　母月髭黒北方
とうぐんう入内・おげらるゝ中の君どいとうちとられぐらとむ
されのうへうるいもうとうを
常陸宮

阿闍梨　私云和尚の巻より醍醐の阿闍梨
源氏のれ八侍まいりて・くえにいもうとれれもとうて・
あるとき夜かくらし人
蓬生君　とゝうむ巻の巻より・源氏の君のあひ・蓬生
ひとゞのあんようけるひのふりき付末つむ
摂政太政大臣
そちつゞるとさ大臣して・源氏の君の冠をし人へるう・う
まの巻より後仕・れげらる太政大臣して摂政し給・
うゝ雲の巻月ようを路ひき付左右
後仕太政大臣——母三の女——
そちつゞる義人サ将・そちゞにスス中将・紅葉賀る巻

位下・次ぐ宰相の中将・おづる・権中納言・うす雲
の権大納言・右近大将・右衛門督・式部大輔・藤
うぐいす太政大臣・式部卿の親王・そまつりの
うさのかるうるはしやの巻・ゆきはな
左中弁

ゆびきえれる・小山へ源氏のれむ人・ようちー人・岩の
えんの中将・弁ちゐ・まいりあのそでつるも・ひ人ちる
べー・タぐれの巻の・人人弁をこれ人ちや

藤大納言
春宮大夫

ひ二人へ・源氏三条のうやへ・ちる・紅・枝仕のおと

ひきつれ・ゆまいり・右・しー人へや・かげ・ひれ・左近・とある・
とらえん・右衛門督・権中納言・ところ・ものを・この人ぐ乃
愛・ちゐ・ちうぶ・ぶ・ちうし・右衛門督・なるべー

葵上

あつひの巻・タぐれの・えを・とうと・とそそうを・結

右衛門督
権大納言

母三の宮

母二条太政大臣女宮君

しなる・右近・中将・ちゐ・ひ・ひ・の中将・ちる・
上・宰相・右衛門督・内下・る・権中納言・柏木巻・ちゐ・の
れ・権大納言・ちゐて・ほどれくうをのふ

紅梅右大臣

母内上

ちゐ・ちゐ・ふて・顔・ちぐ・れ・ま・れ・ち・れ・日・母・ち・こう

ひゝ人ゝおげうゝは元服・御音は弁少将・ゆられ上は次弁・右
ゝゝは右大弁・柏木は大納云うぐゝうゝし時・一条の家
のれ夏ゝとそれゝへずむゝは冷泉院へまいゝゝもこの
人ゝうゝべゝ・紅梅は按察大納云どゝ白・竹ゝは右大納云・右
大将ゝけゝうゝ右大臣は改名いゝゝう・又雅ゝ本は白家の和閑
まうでのれむゝへまいゝゝ夜大納云もこの人ゝべゝ・やゝゝ
まあゝまやはいゝゝて・按察大納云どいゝる不審

大夫

紅梅は・ゝゝふゝて兵ゝの家いゝもゝゝ氏ゝのゝ易給ゝ人

麗景殿女御　母故北方

紅梅は長家へまいゝ給

中の君　母おゝゝど

右衛門督

承香殿の女御給ゝゝるゝゝひ人ゝや

藤宰相

ゝゝれゝゝはゝゝのまゝゝのゝへさゝゝ人ゝひ二人ゝゝゝゝぐゝゝれゝお
ゝゝの六条は兵ゝゝ家ゝゝひゝそゝゝ給ゝ中三位さゝゝれゝ
人ゝや・玲出は六条院はゝゝゝひて・冷泉院はゝゝゝもひ人ゝや

頭中将

蔵人少将

ひ二人ゝ幻の巻は・夕ぐゝれ来ゝゝゝゝゝゝ兵ゝ上ゝのゝる時・あひ
ゝゝゝゝゝ人ゝ・ゝゝの長ゝゝゝゝゝゝゝゝ・夕ぐゝの大将・一

条家よりひきとりて、ひけ侍をつかひて、ちくたくぐ、
衣ども、ひうちめしとりくぐの給ふ、ことのよせ納言、兵
衛の佐、侍従大夫などゆゑしもつかれるまうけ時、兵衛佐大夫
などつかうまつれ人ぐ、なるべし

八郎君

まれぐ、なる、踏哥の時、ふかうてあるし人、数のうちぶ
の行者、賀王恩、まひしもこれ、ちなるべし

玉鬘尚侍　　女房たちのうへ

四のうちたのうへのめしとよびて、ぐしてたちへぐるに、年
てむぐ、の巻、系へのぼる、数ぐ、面、内侍、橘行、
ひげぐろの小のうちよりのふ

弘徽殿女御　　女房　同　柏木

ゆゑ、ぐ、なる、十二、て内へまいりのふ

夕霧大臣宣　　女房　家大納言の今の少方

雲井のうちもうちずきひしし人　わさ付雲井

近江君　　女房　ぞとうく、ちれて出し人

●二条大政大臣　　わさ付たたち

朱雀院の女房　祖父ぐ、めいた大臣、唐名、大政大臣、そうをの人

藤大納言

頭弁　　宰相、白虹日貫つ、めけつ、通ち、人

麗景殿女御　　朱雀院れ、ちなれ時のおれさ、ちに、

四位少将　　ちなぐ、殿のえんちなる、ちなる、孫氏のれ、人、

まいりて、さしてものなどもつくへき人
左中弁　山三人は源氏ぬしなるべし月夜の月はなのもとにて
ふのぢんのうへ　人をつけてうたはせ　侍　弘徽殿
出給　人のれをうちうへぐやぐ　ぐ　ぐ
そけまいりてうたはせ　人ぐ　ぐ
弘徽殿大后　わさ付弘徽殿又は麗殿
朱雀院のれ　おりひる皇太后うたはせ　侍　れ上
宣仲宮小方　さのえんの寒　ふ
侍従大臣室　四の君とうたはせ
五の君　さのえんよりうたはせ
朧月夜尚侍　わさ付朧月　おりひる朱雀院よりおりてうけ給と
源氏ノさハンノイキトニ　ヲニニリテ侍ノミヲハヒヒヒフ

そこ　ひ　さ　ま　ま　ま

●左大臣　竹河と大臣と号して

女　夕ぐれ れ子宰相の中将 うゝ人の中将ところ

しゝ時 おひうゑのかも

●右大臣　今上の御祖父 おゝしまる太大臣ところ

鞠黒太政大臣

こてふよる大将 ゝれ上よる左 ゝ将ぐ 内下よる右大臣ゝて

と大将を 諦と 新帝 れうゝ しゝ ゝ 治 太政大臣

ゝ治ゝ 竹河 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

頭中将

源氏の大将ところ ゝて しゝ 時 内侍のつかれゝ ゝ 出 治

おゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

給りて、姫君参りたまへりとて、やがてまゐ給ふ。数のえんの日、れ
もりのひなびをしぶ人ちるべし

右大弁　　女おとど

しぶ二人むづかれ給ふ。六条院よりわれそまろれし時。
ぐしてまいり給ふ。又東雅院れ賀のこぐれ日おとどさ南
日いまいり給ふる行ふる太中弁。月参りよる大弁

頭中将　　女おとど

行ふる侍従月参りよる中将

真木柱上　　女中納言より月

ふられ下る。蛍の兵部卿宮の小方ふるちやうを給ふ。
後に梅大臣。按察大納言ところ。しぶ小方ふるを給ふ。

まり紀のうらら紙をもすうちとられおしうら人

女れ　　女むづかしの四侍

行ふの四月より冷泉院へまいり給ふ。夕ぐれのれ子。宰相中将

義人サ将ところ。しぶ心つく給人

尚侍　　女女れよおとど

行ふる女のゆづりどうけて四侍ふらやで四へまいりあふ

●大臣

六条れ息所　十六まて前坊へまいり給ふ秋好中宮をうめる。

十九まてうやまとられ給ふてむまれ秋宮よりて

侍従ふるぐらこおげうまのゆりて給ふくうを給ふ

●大臣——女御　六条の八宮のれ女

●大臣　ひめ君二人うとくてうられ給由をうらみひめ君

宇治宮小方　たゞをとらしぶぞ

常陸宮小方　わき付浮舟

宇治宮の小方のめいとい中将君とて宮よりひさ小方

を給て後手習の君をうめら後よ者僅よびてよびあつまる

●大臣

入道播磨守　近衛中将ちらけつゝ辞ちて播磨守よりて

元国ゆてゝ元おろしゝらるゝ西ワれ上よ侍ゆてゝ

源山よりをめ

明石上　母中勢親王のむまで

松風より元海でまるれて大井に行しゞ女よ六条院よりて冬の

れうとくさ

●按察大納言

雲林院律師

源氏の君のれをゞ法文ちゞらまを給へちゝ宋よ三

桐壺更衣

源氏の君をうを給て三ゞをといかまもるゝちめざちゞて

まで行ゝ時輦をゆゝさゝ鳥色ゆゝ寸板三位をゝ

●按察大納言——紫上母

●按察大納言——五節君　しゝ女よ葬姫よちて・やゞてさ

ゝひさ・ゆゝゞゝのむすめらあり

●大将　東宮よ加大将とゝゝ　左近サ将　ひちれをけゞむこ

●權中納言　右衛門督なりけるころ

左衛門佐　源氏中将のうへ〻の時童にてゐ給へりしを

とられ男よりてひきもてゆくをきゝやにのぼりうをとれたるを

空蟬君

父中納言うせて後いと孔をけゞつきまとはりて又ひきもたりける

ぐゝ〻しけゞしくもてなさやまとへのゐりて月参りをもけま

とられて後尼になりて二条院の東のみんなすこさ

●右衛門督　母をの尼　中将ちゝ人のゐ方

うせにしてゝ〻ひまこゝろ

●参議宮内卿　明石乳母　母院宣旨

源氏ゝ〻ひらて明石へゐ〻ゐ拡風は姫君をもて姫へのかりめ

三位中将

夕顔上　後住のちゝ〻ゐ人への女侍ところ〻しけゝうひて玉

ゐ〻をうめ〻を後夕ゐのやゐて源氏まあひ〻ゐ

の院とゝやうてもれまらゝれうもめゐ十九

宰相　宰相君　ゐりゐれ右如房六条院ますこ〻ゐ〻し

人ゐ代ゐ〻ゐ人行ゐ葉ゐ言ゐみけ〻も代へゐ

参議藤原惟光　母大弐乳母

もゝめ民部大輔ところ〻ゐ女ゐ津守ゐて左京大夫けゝ〻梅ゐえに宰相

兵衛尉　童ゐて賀ゐをゆゐ〻れ〻ゐ〻ゐ夕霧乃

文けゝ〻ゐ〻ゐ〻れ〻ゐ〻ゐ梅ゐえゐ兵衛尉みゐ〻ゐ

うゐれ〻ゐ〻ゐ〻ゐてまい〻ゐ人

拔典侍
山阿闍梨
サ将令婦
三河守妻
●前播磨守
源良清
どこゐ
お節
●左中弁
弁尼

女節の弾指・夕霧れおそくの心べ下る内侍依こゐ
惟光があにと夕ぐかよることうち
夕ぐかの巻よこゐ
夕ぐかよ大武のあまれるやこうはありさ

紫よ義人ふてくうゐ絡あるまみ納言
おおいぐるよ鞦負依し女よ太中弁よて近江守を兼ね
し女の巻よ内よせうしやでさふふうこゐ

宇治の家の小方女うるのをちとうち
女柏木のめれと
女三宮の侍従のめれとのめいゆう大将よ昔のるすしさう

●伊与守

そ一人さ内人ふうふうこうびよこゐ
さらめは伊与よぐちびちちにぬてきやよのぐ内巻ようきぬ
紀伊守　源氏れかふぐ人の中ぐの家あるぐをさやよ河内
守よるうよぐとありとけふこうぐよこゆうう
義人太近将監　源氏の大将よて祝院のれ禊よつうもつと
ぬ一時一条ちうう一人ちう大将次ア人のうにをもむ
さ結一おう義よのれうぐけぐれうのがうてゆげい
のぞうよるう松うぎよようあうまもうさ
義人サ将妻
うつをこの志のまくむすめ源氏うつをこのもめけの巻あハ

なて、彩ぢれ義をむすぶ。そこにけうらう人

●常陸介　もくいうちのうたのうこ後のよひうちよりあり

義人式部丞　母まへのつま

あづまやよ内うちれつひて白文へまいりし人

義人太近将監　母いまかのうこ

源大将昔のゆうとさして義人よりて我方れ将監よりあり

童　母おうな

多習の君をのよみとさて源うれ文をそ引かれし人

源少納云妻　母まへのつま

讃岐守妻　母おうど

少将小方　母今ふのうこ

●太宰大貳　多習の君のうとこ引ひ少将のうこへいりし人

源氏次广よおりまきむろ引てうのぶらて書づれ

そまうらし人

筑前守　ちれつひて次广へまいりし人

五節

源氏あひこ語し人るう父こうて次广れ巻よ京よのか

ふ又明石巻ふをとめれ巻にも書づれのうこと書

●太宰少貳　タうのうへのれれおとこ

豊後介

父うきて後むづこれ右れうてのぶ六条院へわうと

857
120

次郎
三郎
楊名殿妻
姫君
兵部卿宮
大輔命婦

ある時、それなりの家司ばかりとて
は二人いけうしめまうけて京へものがたり
夕ぐれの琴をこゑ
これをいけうしあるとつさてのがたり
まくはあてごとにいひさはぎてのがたり
ものんごゆゑとりつ
母方傍門の乳母
もろつむ、志の夏侯氏ばかりをしさをしへ人

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

ガラス使用